「ちがい」が当たり前の社会に

不安と恐れの正体は「知らない」こと インクルーシブ教育で壁を取り払う

人はいつから、自分と他者の違いを受け入れにくくなるのだろうか。千葉県の社会福祉法人気づきは、子どもたちができる限り幼いころから障害の有無などに関わらず同じ場で学ぶ「インクルーシブ教育」の必要性を感じ、運営する児童発達支援事業所で定期的に障害者と地域の児童が交流を持つ機会を設けている。社会福祉法人気づきの同族会社である株式会社アースの副社長に、ALS患者の舩後靖彦さん（前参議院議員）を迎え、当事者の視点から事業を、そして社会を見つめ、着実に共生の道を拓いている。

補いあえば、1人では行けない場所へたどりつける

千葉県松戸市で、サ高住、訪問看護、看多機の在宅介護サービス5事業所を運営する株式会社アースと、医療的ケアが必要な子どもの児童発達支援など介護・障害福祉サービス5事業所を運営する社会福祉法人気づき。両法人の代表を務めるのは、看護師の佐塚みさ子さん。2009年にアースを立ち上げ、「訪問看護サボテン」の事業を始めた佐塚さんは2012年、舩後靖彦さんと出会った。ALS患者の舩後さんが一人暮らしを始めるとき、地域の訪問看護事業所はどこも支援を引き受けず、佐塚さんに依頼が来たのだ。

「私が断ったら舩後さんは一人暮らしができない。それじゃああんまりだと思い、受けました」（佐塚さん）。実は舩後さんは2011年まで入所していた障害者療護施設で虐待を受けていた。一人暮らしは舩後さんの人権を守る方法だったのだ。

取材協力▶
（左から）
井上優実さん　社会福祉法人気づき 思いやり保育 管理者 看護師
舩後靖彦さん　株式会社アース 副社長 前参議院議員
佐塚みさ子さん　同 代表取締役、社会福祉法人気づき 理事長 看護師 介護支援専門員
平原良子さん　社会福祉法人気づき 理事 療養デイ思いやりキッズ 管理者 看護師

2014年、佐塚さんは大きな決断をした。舩後さんをアースの副社長にと依頼したのだ。「事業所を運営する中で、利用者やヘルパー、看護師など、みんなが対等で同じ目線になるにはどうしたらよいのだろうと課題を感じていました。そこで、舩後さんを役員にして意見を聞きながら運営する方法を考えました」。この打診に舩後さんは最初こそ驚いていたが、快諾。副社長に就任した。病院での勤務が長かった佐塚さんは、一般企業での経験がほとんどない。ALSと診断され退職するまで商社で働いていた舩後さんから、スローガンや社歌、チラシや新聞を作って、利用者や社内のスタッフみんなに知らせることが大事だと教わり、実践した。「関わる人みんなが共通の目的に向かうにはどうすればよいか、舩後さんが様々なアドバイスをくれて、会社が大きく変わりました。誰しも苦手なことがあります。それはその人のダメところではなく、他の人が補えること。みんなが協力すれば達成できることがたくさんあります」（佐塚さん）。一般企業での勤務経験、ALS当事者であること、作曲が得意なこと等、舩後さんのもつ様々な面が、佐塚さんとの出会いでまた社会に生かされている。

30年後のインクルーシブな社会へ 障害児と地域の子どもたちの交流

人と人が対等に接し補い合うことを大切にしてきた同法人。医療的ケアが必要な子どもの児童発達支援事業所「思いやり保育」「療養デイ思いやりキッズ」で、地域の保育園や近所の小学生などと交流をもち、子どもたちができる限り幼いころから障害の有無などに関わらず同じ場で学ぶ「インクルーシブ教育」を目指している。「自我が目覚める前に同じ空間で育つことが、自然にお互いの違いを尊重しながら共生するインクルーシブ社会につながると思っています。昔は障害者は悪者扱いされたり、優生保護法があったりしましたが、今は少しずつイメージや受け入れ環境は良くなっていますよね。